



シルバーとなみ

第 38 号

平成29年5月10日発行

# ふれあい

発行 / 公益社団法人 砺波市シルバー人材センター

砺波市高道 217 の 2 TEL/0763-33-4341 FAX/0763-33-5854 HP/<http://www2.tst.ne.jp/t-silver/index.html>



撮影 / 森沢信彦 (林地区)

市内全地区で交流会を開催

砺波市シルバー人材センターは、今年も市内全地区で会員との交流会を開催しました。

交流会では事務局から事業実績報告・事故発生状況(シルバー保険関係)の説明しました。

会員の皆さんからセンターへの要望等では、日頃の就業で感じている率直な質問が出され貴重な時間を過ごすことが出来ました。



シルバーの現状を知る良い機会です。



会員と事務局でいろいろな知恵を出し合います。



皆さんからの主な意見・要望

Q.派遣と請負は仕事をする上でそんなに変わるのか。

A. 仕事上は大きく変わりません。ただ、派遣は依頼主の指揮命令で動く仕事で請負ではありません。もし請負契約で発注者からの指揮命令が発覚すれば、偽装請負ととられ、労働局から厳しい指導があります。

違いの二つに保険の取扱いがあります。請負ではシルバー保険が適用されます。怪我をした場合や誤って他人に傷害を与えたり、財物を損壊した場合はこの保険が適用されます。ただ、入院や治療を受ける場合は一旦自身の健康保険で対応してもらったこととなります。一方、派遣はセンターが加入している労災保険が適用されます。

Q.就業途上時の事故・怪我についてどこまでシルバー保険が適用されるのか。

A. 就業場所へ向かう途中に万が一事故にあつて怪我をした場合、本人の怪我はシルバー保険の対象となります。ただ車の場合、相手の怪我、また自身の車・相手の車の補償はシルバー保険の対象外となり、自身が加入している車の任意保険で対応する必要があります。

あります。

自身が運転する車で他人の財物を損壊した場合もシルバー保険の対象外です。車の任意保険には必ず加入してください。

Q.女性会員が不足していると聞かれました。短時間の仕事でならどんなものがあるのか。

A. 子守りや屋内清掃、近年需要が増えている軽度生活支援サービスなどがあります。清掃の仕事などは2〜3人でローテーションを組んだり、短い仕事を掛け持ちしたりなど工夫して仕事を請負い、公共、民間、個人家庭、軽度支援などさまざまな分野で活躍していただけます。

Q.馴染みのふれあい店について。

A. 開催は月1回程度、場所はシルバーワークプラザに隣接する車庫周辺の考えています。会員手作りの野菜や手芸品などの販売を予定しています。既に実施している県内のSCなど様々な所から情報を集め、協議を重ねながら進めていきたいと思えます。このふれあい店に興味のある方、協力してみようという方を募集しております。

キャンペーン実施中!!

今では国内だけではなく海外からも観光客が訪れる砺波市のチューリップフェアに、今年も多くの会員の皆さんが就業し、運営を支えられました。

その会員の皆さんにシルバーで働くことについて聞いてみました。

「私の健康と生きがいながー」「家でボーとしてるより、友達と話せて楽しいちやー」とかいろいろな声が上がりました。

近年、高齢化率が高くなり、色々と社会問題になっています。この会員の皆さんたちの様に、明るく老後を過ごすことが出来たら、また自分の健康と体力にあった仕事をする人が増えたら、砺波市の健康寿命も伸びる事でしょう。

でも残念ながらシルバー人材センターで働きたい人がなかなか増えていないのが現状です。

砺波市シルバー人材センターでは『友達紹介キャンペーン』『一緒にワーキング大作戦』を実施しています。

会員の皆さん！ぜひお友達に声を掛け、健康で生き生きと働く仲間を増やしましょう。

(広報委員 坪本幸世)

働く仲間大募集!!

市民参加型講習会を開催

今回で三回目となる、砺波市在住の六十歳以上の方々を対象とした「竹垣づくり」と「障子張替え」の市民参加型技能講習会を開催しました。この講習会はセンター独自で開催することで、市民の方々にそれぞれの技術を学んでいただくほかシルバー人材センターの取組みの現状を知ってもらおうと行うもので、二月二十五日(水)開催の「竹垣づくり」は十四名が竹垣作りに取組みました。当日は、日頃から剪定・雪吊などの樹木管理で活躍されている、センター会員の老松義勝さんと古島久長さんに指導していただきました。



様ざまな縄の結び方に皆さん悪戦苦闘の様子でした。

竹垣は大きく分けて二種類存在し、向こう側が透けて見える『透かし垣』と壁のように遮断する『遮蔽垣』があります。今回学んだ『四ツ目垣』は『透かし垣』の中でも代表的もので、空間を隔絶するの



綺麗に張り終え講師の方からも太鼓判をいただきました。

ではなく仕切ることによって向こうとこちらの空間をより関連付け際立たせるような役目をもっています。

講習会ではまず、老松さんから「作り方」について道具・材料・制作方法など資料をもとに説明を聞き、実際に制作を行いました。参加者の皆さんは縄の結び方などに苦戦しながらも、二時間という短い時間で立派な四ツ目垣を作りました。

また、二月一日(水)開催の『障子張替え講習会』は、男女合わせて十四名が障子の張替えを学びました。

講師は、日頃から障子戸・襖の張替え業務で就業されている会員の花木輝雄さんと安田千香子さん、斉藤政治さんに務めていただき、実際にのりの付け方や障子紙の張り方、端を美しく切るコツなどのアドバイスを受け作業に取り組みました。

ハウスクリーニング講習会を開催

三月三日(金)に『ハウスクリーニング講習会』を砺波市シルバーワークプラザで開催し、日頃から清掃作業や軽度支援サービスで活躍している二十九名の会員が参加しました。

講習会は、新星株式会社から講師としてご指導していただき、講義では清掃の知識として『嘔吐物処理(ノロウイルス)』について実演を見ながら勉強しました。ノロウイルスは処理の手順を誤ると作業者本人が感染し拡大する可能性もありそのポイントも指導いただきました。続いて台所水回り清掃・トイレ清掃について二班に分かれて実技を行いました。

受講した皆さんからの感想の一部を紹介いたします。  
学んだことを家庭や仕事で活かしたい。  
薬品(洗剤)をうまく使って仕事をする  
とより綺麗になることが分かった。  
道具の正しい使い方を学べてよかった。



お掃除のプロから直々にコツを教わりました。

安全就業講習会の開催の様子

刈払機取扱講習会  
六月十七日(金)・三月九日(木)



チェンソー取扱講習会 二月十日(金)



安全運転講習会

一月十八日(水)



# シルバー安全ニュース

平成二十八年度は対前年比で傷害事故が三件の増加、賠償事故が三件の減少と、前年度に比べ事故の総数は変わらないものの傷害事故が4件から7件に増加しました。

傷害事故は、七件中三件が就業途上の交通事故による負傷でした。一方、物損事故の傾向は、年々減少しているとはいえ刈払機による飛び石事故が原因であり、車両の移動、養生対策を徹底しなければなりません。

平成二十九年度県内全センターの事故防止共通施策として、就業前の『指差呼称』を実施するよう呼びかけています。危険を伴う作業の要所所で、集中力を高め「うっかり・ぼんやり」などの人間のエラーによる事故を防ぐのに非常に有効です。皆さんもぜひ就業前、就業途上に実施していただきたいと思います。



県シ連安全適正指導員との合同パトロールの様子

去る四月二十四日(月)、砺波市シルバー人材センターの第一回安全・適正就業推進委員会が開催され、平成二十九年度安全・適正就業推進計画を策定しました。

一、事故件数削減数値目標の設定  
①傷害事故を前年度発生件数の十五%削減、物損事故を前年度発生件数の十%削減を目指す。

②事故件数削減目標達成に向けた取り組み

- ・「指差呼称」で安全を確認し、就業中・就業途上の事故を減らす
- ・作業前安全点検表の活用による就業前ミーティングの徹底
- ・三脚脚立と樹木との結束の徹底
- ・整理、整頓、清掃、清潔の徹底
- ・草刈時の車両の移動・養生の徹底
- ・作業中の注意喚起を促す看板設置の徹底

二、安全意識の高揚

- ①「安全就業標語」の活用による意識高揚を図る
- ②「ヒヤリハット体験事例」の募集・掲出による意識高揚を図る
- ③安全就業講習・研修会の開催



対前年度事故件数比較表			
区分	27年度	28年度	増減数
傷害事故	4	7	+3
賠償事故	5	2	-3
合計	9	9	±0

### 平成29年度事故防止共通施策

この施策は、県内全拠点センター共通して取り組み 事故防止を図る

- 作業前ミーティングと安全チェック**
- 安全帽の着用
- 刈払機作業
  - ！ 作業場所に応じた刈刃の使い分け
  - ！！ 車両の移動依頼
  - ！！ ネット等での飛石防止対策
- 剪定・雪吊り・伐採作業
  - ！ 三脚脚立と樹木の結束

指差呼称は大きな声で！

富山県シルバー人材センター連合会 安全・適正就業対策推進委員会

## 配分金 支払い日案内

- 5月15日(月)
- 6月15日(木)
- 7月18日(火)
- 8月15日(火)
- 9月15日(金)
- 10月16日(月)



砺波は今、樹々が芽吹きさまざまな色の花、そして田に張られた水、吹きわたる風と爽やかな季節となりました。

私事ですが先日、義母の「百寿の祝い」があり、三歳から百歳まで五十名ほどが集まりました。百歳を迎える方は珍しくない超高齢化社会になりましたが、定年後平均寿命まで二十年から三十年と長い老後となります。この間いかに健康でいられるかを考える時、シルバー人材センターの会員となり、働いていられることで脳も体も活性化して健康寿命が延び、幸せな老後を送ることが出来ること感謝し過ごしたごと思えます。

(広報委員 横川紗代)